

事業コード	H22-建-継-04		区 分	国庫補助 県単独
事業名	海岸環境整備事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	海岸事業		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	琴浜海岸		担当課長名	河川砂防課長 秋元 良三
箇所名	男鹿市宮沢		担当者名	主幹(兼)班長 鏡 藤広
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	H08 ~ H25 (18年)		総事業費	14.5億円	国庫補助率	1/3	
事業規模	人工リーフ計画延長L=641.0m 人工リーフL=310m×1基、L=151m×1基、L=180m×1基						
事業の立案に至る背景	<p>琴浜海岸は、須郷岬(青森県境)と男鹿半島に挟まれた南北に湾曲した砂浜海岸の中央に位置し、男鹿国定公園に隣接する県内有数の海水浴場である。しかし、既設離岸堤があるものの汀線が年々後退し、海水浴場としての機能が失われつつある。また、離岸堤により景観が悪化し、海水浴客が減少している傾向にある。</p> <p>このことから、早急に離岸堤から人工リーフに施設転換を図り、景観に配慮した海水浴場を回復させる必要がある。</p>						
事業目的	<p>琴浜海岸の重要性に鑑み、安全な海岸保全施設の整備を図るものとし、周辺環境及び景観を考慮した人工リーフを設置する。</p> <p>これらの施設設備を行うことにより、海岸浸食を防止し、海浜の環境を整備する。</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,595,300	1,448,100	-147,200			
	経費内訳	工事費	1,406,000	1,258,800	-147,200	計画延長L=40mの減による	
		用補費	0	0	0		
		その他	189,300	189,300	0		
	財源内訳	国庫補助	531,000	482,000	-49,000		
		県債	957,870	868,860	-89,010		
その他		0	0	0			
一般財源	106,430	97,240	-9,190				
事業内容	人工リーフ工 既設離岸堤撤去工	人工リーフ工 既設離岸堤撤去工			海岸背後施設への影響範囲を見直した結果、計画延長が減となったため。		
事業の進捗状況	全体事業費	14.48億円					
	平成21年度末投資額	13.02億円					
	事業進捗率	89.9%					
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」で5つの戦略を支える横断的な取組の(4)の社会資本整備の推進の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	日本海沿岸は、冬季波浪の影響のため、施工可能期間が半年程度と短期間であるほか、海岸事業全体の予算上の制約により、期間を要している。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	海岸整備率					
	指標式	海岸整備率 = 整備延長 / 要整備延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	57.1 %		データ等の出典	河川砂防課		
	実績値 b	56.6 %					
達成率 b/a	99.1 %		把握の時期	平成22年3月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	琴浜海岸は県内有数の海水浴場であり、また、その背後には、CCZ整備計画による温泉施設、コテージ、学習施設が整備されており、地元男鹿市の重要な観光資源である。 当該事業が地元経済に与える影響は大きく、活性化に対して大きな期待がもたれている。	25点
緊 急 性	既設離岸堤により、大きな浸食被害は食い止められたが、汀線が年々後退し海水浴場としての機能が失われつつあり、また、離岸堤により景観が悪化し、海水浴客が減少している傾向にある。 よって、早急に離岸堤から人工リーフに施設転換を図り、景観に配慮した海水浴場を回復させる必要がある。	16点
有 効 性	「ふるさと秋田元気創造プラン」の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられており、当該事業により、汀線の後退を抑制し海水浴場としての観光観光資源を維持することは、有効である。	10点
効 率 性	事業の費用便益比は1.23であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 20.9億円 ・総便益の現在価値 25.8億円 人工リーフに用いる被覆ブロックを撤去する消波ブロックを再利用することによりコスト縮減を図っている。	13点
熟 度	離岸堤を早急に撤去し、人工リーフへの施設転換する当該事業に対して、地元住民の理解、期待は大きい。	18点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「重要性」「有効性」「効率性」等から、事業の必要性は高く評価できるものとする。	82点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 海岸事業

事業コード (H22-建-継-04)
箇所名 (男鹿市宮沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	防護対象となる面積・人口 1 kmあたりの防護面積・人口	10 ha以上又は100人以上	15	10	
		7 ha以上又は70人以上	10		
		5 ha以上又は50人以上	5		
		その他	0		
	災害発生時の影響 浸水・侵食戸数	10戸/km以上	10	10	
		5~9戸/km以上	7		
		5戸/km未満	3		
	事業箇所の現状 波浪、浸食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5	5	
		被害は見られないが防護は劣っている	3		
		優れている	0		
計		30	25		
緊急性	海岸整備の緊急性 過去の被害実績	過去に2回以上の被害実績がある	5	3	
		過去に1回の被害実績がある	3		
		記録された被害実績はない	0		
	侵食の速度	1.0m/年以上	10	10	
		0.5m/年以上1.0m/年未満	7		
	生命財産の危険性	0.5m/年未満	3	3	
		背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される 越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される	5 3		
生命財産の危険性は想定されない	0	0	計	20	16
有効性	海岸整備に伴う有効性 災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5	5	
		侵食防止効果は現状と変わらない	0		
計	10	10			
効率性	事業の投資効果 費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	3	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
	当初計画との比較 当初計画事業費からの増減	減少又は10%未満の増加	5	5	
10%以上30%未満の増加		3			
30%以上の増加	0	計	15	13	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	システム = 秋田県公共事業環境 配慮システム
		システムでの環境配慮事項が1?2事項	3		
		システムでの環境配慮事項がない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3	
参画している		3			
参画していない	0	計	25	18	
事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5		
概ね進捗 (90~100%未満)	5				
計画より遅れている (90%未満)	3				
計	25	18			
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		